

FOYER



Special feature
熊本県知事 蒲島 郁夫
熊本県立劇場館長 姜尚中

共有空間
共
空
間

KUMAMOTO JAZZ 2020
小曾根真 featuring No Name Horses
ジャズ×ロック 新しい世界へ
速報！巨匠テミルカーノフ指揮
サンクトペテルブルグ・フィル
2020年4月熊本公演決定！

文化事業のご案内

- 1/26 【ネットワーク事業】あべや 牛深公演
1/26(日) 開演13:30 | 牛深総合センター
全席自由1,500円
【お問い合わせ】牛深総合センター 0969-73-4191
- 3/4 【ネットワーク事業】三遊亭好楽落語会 長洲公演
3/4(水) 開演14:00 | ながす未来館
全席指定2,000円
【お問い合わせ】ながす未来館 0968-69-2005
- 3/10 KUMAMOTO JAZZ 2020
小曾根真featuring No Name Horses
Until We Vanish 15 X 15
15th Anniversary 2020
3/10(火) 開演19:00 | 市民会館シアーズホーム夢ホール
S席5,000円 A席4,000円 B席3,000円
【お問い合わせ】市民会館シアーズホーム夢ホール 096-355-5235
- 4/19 サンクトペテルブルグ・フィルハーモニー交響楽団
4/19(日) 開演14:00 | コンサートホール
SS席12,000円 S席10,000円 A席8,000円 B席6,000円 ※1/16チケット発売
【お問い合わせ】熊本県立劇場 096-363-2233
- 5/27 ベルリン・フィル八重奏団
5/27(水) | コンサートホール
S席8,000円 A席6,000円 B席4,000円 ※3/6チケット発売
【お問い合わせ】熊本県立劇場 096-363-2233



※各種割引があります。
詳細はこちらから

 熊本県立劇場
KUMAMOTO PREFECTURAL THEATER

【企画・発行】
公益財団法人 熊本県立劇場
熊本市中央区大江2-7-1 〒862-0971
www.kengeki.or.jp

【編集・制作・印刷】
株式会社 ジャム
熊本市中央区練兵町45早野ビル1階 〒860-0017
www.jam-cf.com

熊本県立劇場季刊誌 ほわいえ 2019 winter 発行日:2019.12.20 ※掲載内容は12.10現在のものです。

What is a Shared space ?

姜・私自身、熊本のことをよく知らなかったし、足元をよく見ていなかった、と。熊本には、お宝がいっぱいある、と気づかされました。

蒲島・九州新幹線開業の時に、小山薫堂さんと一緒にくまもとサプライズ

姜・山鹿の小学生にとっては、世界的な合唱団とコラボしたことはインパクトのある体験だったと思います。

蒲島・県劇の公演には、度々訪れています。「ウイン少年合唱団」は一度聴いてみたいと思っていましたし、実際に鑑賞してみても、彼らの歌声がとてもナチュラルで清らかなことに驚きました。世界中を自然体で交流しながら、自分を高めているのではないかと感じました。共演した山鹿小学校の音楽部も素晴らしいものでした。

姜・先日県立劇場で開催された「ウイン少年合唱団」と「熊本県芸術文化祭(以下芸文祭)オープニングステージ」にお越しいただきました。知事に直接お越しただいて、劇場としてはとてもありがたいことです。

自由でボーダレスな「広場」と「共有空間」に夢がある

対談

熊本県知事 蒲島郁夫
KABASHIMA IKUO



熊本県立劇場館長 姜尚中
KANG SANG JUNG

運動を行いました。熊本の良いものについて、まずは自分たちがサプライズしよう、という取組みで、自分たちが驚かれないことを、ほかの人たちに驚かせることができるのか、という発想から出てきた企画でした。当時は熊本を素通りしてしまうのではないかとこの熊本サプライズ運動は、予想もしなかった別の果実を生んだのです。それが、くまモンです。

姜・熊本県ではくまモンなどソフト面において、今後、熊本県全体で文化発信をどのように行っていくのか、ぜひお聞かせください。



Special feature

熊本県知事

蒲島 郁夫 [かばしまいくお]

11月に知事室で行われた対談は、終始和やかな雰囲気だった



蒲島…まず、くまモンが大活躍している要因を分析してみると、くまモンが持つ「共有空間」にあります。この空間は、誰でも入ることができて、自由に才能を発揮できる。いわゆる楽市楽座です。それが、世界中に拡大したのです。誰もコントロールしない、自由で平等な空間です。この共有空間の存在自体が行政的にも大変ユニークで、橋や道など物理的なものを造るのではなく、くまモンの共有空間という心理的なものを創った。ものをつくらずに、くまモンは自ら共有空間を広げて、みんなを幸せにしていく存在になっていったのです。

姜…数年前にパリに行った時に、そこにくまモンがいて驚いたことがありません。知事がおっしゃるように、くまモンが見えない広場になって、みんなを抱擁しているわけです。

蒲島…見えない空間であり、言葉もしゃべらないから壁もない、全くのボーダレスです。考えてみたら、文化というものは、そういうもの。興劇が果たす役割はまさにそこにあるのではないかと考えます。



「劇場」の既成概念を壊したら、夢が広がっていく

蒲島…熊本地震で被災地になって、様々な文化人が被災地のために何かしたいと集まってくれました。私はこの経験から、大切なのは「こころの復興」だと感じました。芸術は人々の心を癒し、希望を与えます。そして、未来に向かうエネルギーとなります。これこそが、芸術の本質だと思います。

姜…劇場も被災し4か月間の閉館を余儀なくされました。しかし、まだ閉館していた5月から、外に出向いてアートを届けようとスタッフが中心となって、外に向けたアートキャ

ラバンやアウトリーチを行いました。また、震災の年から毎年開催している県劇盆踊りは、地域に劇場を開放し多くの方々に喜ばれています。

蒲島…それは、共有空間と同じ考え方ですね。これからの人の動きを考えると、この共有空間の考え方が重要になってくると思います。ひとつの例として、阿蘇くまもと空港の今後のあり方があります。国内線、国際線の便を大幅に増やして、空港内の店舗売り場面積を広げる。この空間を広げたところに、人が集まります。

姜…そこで交流することで、壁がなくなり、楽しい「場」になる、と。

蒲島…くまモンに学ぶとすれば、パスポートもビザも要らず、誰もが参加できる巨大な共有空間。その理想的な空間をくまモンが先導しているからすごいのです。

姜…県劇もまさに、外に広げる活動として熊本県内の文化施設と交流を行っているところです。私たち劇場は壁と屋根に覆われていますが、



アートキャラバンやアウトリーチなどで、その見えない壁を広げようとしています。震災から4年近く経ち、創造的復興の中で、これからの「こころの復興」も含めた活動で、何が必要とお考えですか。

蒲島…ソフトパワーです。ソフトの重要性を感じたのは、創造的復興を打ち出した時、「創造」の部分に、多くの方たちから「夢がある」と言われたことです。「こころの復興」が実現できてはじめて、震災からの復興になるという考えは、ハードは完全に戻すことはできないけれど、ソフトパワーの大きなねりがあれば、どれだけでも広がっていきます。

姜…最後になりますが、知事にとって共有空間の拠点として、劇場に期待されることはなんでしょうか。

蒲島…県劇が掲げている「広場」と、熊本県が発信している「共有空間」。このふたつに共通するのは、壁のない、区切りのない世界です。誰もが参加して楽しめる、それが熊本地震からの「こころの復興」に結びついていくと考えています。そして、もうひとつは、外に出ること。つまり、日本中、世界中に発信していくこと。それが熊本共有空間を広くすることになり、熊本文化を広めることにつながります。

姜…実際に熊本の文化を世界に発信する取組みも今後控えています。ただ、グローバル化において、目に見えない壁について考えることも多くあります。壁のない世界を劇場からはじめて、空間の中で人が安らぐことができる、そういった「場」にしていきたいとも思います。

蒲島…例えば、ウイーン少年合唱団に負けないくらい、くまモン少年合唱団をつくる、とか(笑)。





サンクトペテルブルグ・フィルハーモニー交響楽団

2020年度は、冒頭からいきなり目玉公演が登場します。旧ソ連時代、ムラヴィンスキーの下で世界中にその名を轟かせた伝説のオーケストラ、サンクトペテルブルグ・フィルハーモニー交響楽団（旧レニングラード・フィルハーモニー交響楽団）です。

R. シュトラウス、マーラー、ブルックナーなど数々の重要作品を初演した名門中の名門。率いるのは、ムラヴィンスキーから芸術監督・首席指揮者を受け継いだ巨匠・テミルカーノフです。

プログラムのメインに据えるのは、チャイコフスキーの交響曲第5番。サンクトフィルのピロードのような弦楽器と迫力のロシアンブラスを味わうのにぴったりな名曲です。また、ソリストにエリソ・ヴィルサラゼを迎え、彼女が得意とするシューマンのピアノ協奏曲も予定されています。

発売は2020年1月16日。県劇のウェブサイトで席を指定して購入することが出来ます。良席はお早めに！

Highlight

速報！
巨匠テミルカーノフ指揮サンクトペテルブルグ・フィル
2020年4月熊本公演決定!!



ユリ・テミルカーノフ

1938年12月生まれ、レニングラード音楽院指揮科でイリヤ・ムジシンに師事。1966年第2回全ソ指揮者コンクールで優勝。1967年ムラヴィンスキーにアシスタント指揮者として招かれる。1968年よりサンクトペテルブルグ響首席指揮者・音楽監督、1976年〜1988年マリンスキー歌劇場芸術監督及び首席指揮者を務め演出も行っている。1992年、1998年ロイヤルフィル首席指揮者、1998年より名誉指揮者。

1988年、ムラヴィンスキーの逝去後、楽団員の選挙によりサンクトペテルブルグフィルの芸術監督・首席指揮者に選出され、現在に至る。

日本でも長年に渉るその功績が高く評価され、2015年旭日中綬章を受賞。読売日本交響楽団の名誉指揮者としても来日を重ね、気品の有る優雅な音楽が聴衆を魅了している。



エリソ・ヴィルサラゼ

代々ジョージアの芸術文化に深いかわりを持つトビリシの家系に生まれ育つ。祖母のアナスタシヤ・ヴィルサラゼ教授からピアノの手ほどきを受け、音楽院で学んだ後、故郷を離れてモスクワへ移る。20歳でチャイコフスキー・コンクール3位入賞。

2019/2020シーズンは、ヨーロッパとアジアでのツアーを含むソロ・リサイタルと室内楽を行うほか、サンクトペテルブルグ・フィル、日本フィル、ロンドン室内管等との共演を予定。日本を含む各国でのマスタークラスタや、プリュセル、香港でのコンクール審査も務める。

◎1月16日(木)チケット販売開始

サンクトペテルブルグ・フィルハーモニー交響楽団

日時 2020年4月19日(日) / 開場 13:15、開演 14:00

会場 熊本県立劇場コンサートホール

SS席 12,000円 S席 10,000円 A席 8,000円 B席 6,000円

※25歳以下、障がいのある方は3,000円引き



©Ayumu Kosugi

県劇自主事業案内

KENGEKI
KANGEKI

Highlight

KUMAMOTO JAZZ 2020
ジャズ×ロック 新しい世界へ

熊本県立劇場では熊本にジャズ文化を根付かせることを目指し、市民会館シアーズホーム夢ホールと共同でジャズ公演に取り組んでいます。今年度は世界的ジャズピアニスト小曽根真率いる「No Name Horses」が待望の来熊！

2004年の3月に小曽根真の呼びかけで集まった15名のジャズ・プレイヤーズにより結成された「No Name Horses (NNH)」。メンバーはいずれもが日本を代表するミュージシャンで、自身のバンドにてリーダーを務めるトップ奏者というドリム・バンドです。その活動は国内のみならず海外からも注目されており、アメリカ(世界最大のジャズ・コンベンション「JAJE」(国際ジャズ教育協会/NNJ)、フランス(ラロック・ダンテロン・ピアノ音楽祭)、スコットランド(エジンバラ・ジャズ・フェスティバル)、ウイーン、シンガポール(モザイク音楽祭)等で演奏し、いずれも成功を収めています。NNH結成15周年の記念にあた

小曽根真
featuring
No Name Horses
Until We Vanish
15×15
15th Anniversary 2020

◎チケット販売中!

日時 2020年3月10日(火) / 開場 18:30、開演 19:00

会場 市民会館シアーズホーム夢ホール(熊本市民会館)大ホール

S席 5,000円 A席 4,000円 B席 3,000円

※25歳以下、障がいのある方は各席半額

【2020年ツアーメンバー】

小曽根真(Piano) / エリック宮城(Trumpet, Flugelhorn, Piccolo Trumpet)

木幡光邦(Trumpet, Flugelhorn) / 奥村晶(Trumpet, Flugelhorn) / 岡崎好明(Trumpet, Flugelhorn)

中川英二郎(Trombone) / マーシャル・ギルグス(Trombone) / 山城純子(Bass Trombone)

近藤和彦(Alto Saxophone, Soprano Saxophone, Flute) / 池田篤(Alto Saxophone, Flute)

三木俊雄(Tenor Saxophone) / 岡崎正典(Tenor Saxophone, Clarinet)

岩持芳宏(Baritone Saxophone, Bass Clarinet) / 中村健吾(Bass) / 高橋信之介(Drums)

【スペシャル・ツアーメンバー】

山岸竜之介(Electric Guitar)



まなびの風景
SCHOOL
SQUARE

熊本市立二新小学校 「伝統芸能クラブ」

毎年藤崎八幡宮秋季例大祭に奉納されている新町の獅子舞。新町獅子に関する古い資料は細川家の資料で、寛政5年(1793年)にその記述が見つかっています。誕生についての資料はまだ見つかっておらず、一説によると、新町獅子は熊本城の築城時に誕生したとも伝えられています。藤崎八幡宮は、かつて熊本城の西隣にあたる藤崎台にあり、新町はその鳥居元として獅子舞を奉納してきたようです。

新町獅子の舞には、例大祭の初日のみに舞われる「天拝(てんぱい)」と、歌舞伎の影響を受けている「牡丹の舞」の2種類があります。誕生から幾度となく中断復活が繰り返され、戦後の混乱期を経て衰退していた新町獅子が、今日のように例大祭奉納だけでなく、各地へのイベントにおいても舞が披露されるようになったのは、昭和41年(1966年)の「熊本新町獅子保存会」発足がきっかけでした。平成3年(1991年)には、小中学生による「獅子」が結成され、それ以降益々盛り上がりを見せています。



舞手を担当している6年生の長峰諭之介さんと福田のどかさん
今年の運動会では、舞手として活躍していた

熊本市立二新小学校では、クラブ活動「伝統芸能クラブ」で、地元の伝統である新町獅子を練習しています。舞手(まいて)と笛手(ふえて)にわかれ、それぞれの指導は保存会のメンバーが担当。練習した成果は、運動会の時に披露されます。4年生から3年間、舞手として練習を重ねてきた6年生の長峰諭之介さんと福田のどかさんは、小さい頃に新町獅子を見てきて「かっこいい」と思ったことがはじめるきっかけだったとか。2人とも今年の運動会で赤獅子、黄獅子となり、舞を披露した経験から「これからずっと続けていきたい」と意欲を見せてくれました。本番で使われる獅子頭は、子ども用に小さくつくられているとはいえ、かなりの重量。それを手に舞う難しさはあるものの「気分があがる」体験だったようです。

ちなみにこの獅子頭は、地元で工房を構える郷土玩具「おばけの金太」の作者、厚賀新八郎氏の手によるもの。二新小学校では、3年生の総合的な学習の時間に厚賀氏の指導でミニ獅子を制作する授業も設けられています。

利用団体紹介
PLAYERS
SQUARE

熊本バレエ研究所 熊本バレエ劇場 バレエは、人生を豊かにする 総合芸術

「熊本バレエ研究所」は1950年、戦後復興の最中に「三橋蓮子舞踊研究所」として誕生。その後名称を改め、2020年で創立70周年を迎える熊本のバレエ界を牽引してきた存在です。「当時はあの時代ならではのエネルギーに満ちあふれていました」と振り返るのは、自らも研究生の一期生であり熊本バレエ研究所代表の伴征子さん。伴さんが前任の戸田裕子先生の後を継ぎ三代目代表となった1968年は市民の悲願でもあったホール、熊本市民会館がオープンした年。翌年には、この市民会館で研究生の日頃のレッスンの成果を披露する大発表会、サマーバレエコンサートがスタートしました。

1975年には研究生のための発表会とは別に古典作品の上演をめざし「熊本バレエ劇場」の名を冠した公演活動を始めました。旗揚げの演目は、子どもから大人まで幅広い年齢層で構成されたチャイコフスキーの名曲『くるみ割り人形』です。



熊本バレエ研究所 代表
熊本バレエ劇場 総監督
伴 征子 [ばん せいこ]

1984年、『くるみ割り人形』の舞台を市民会館から待望の県立劇場に移しました。2年前に県劇の舞台サイズに合わせて作った妹尾河重氏の舞台装置、熊本ユースシンフォニーオーケストラ、NHK熊本児童合唱団の皆さんとの協演という現在の姿が出来ました。

以来、毎年『くるみ割り人形』を上演していく中、子ねずみ役で舞台を走りまわっていた子どもが、パティに集う子ども役にも、またおもちやの兵隊に、そして成長とともに華やかな花のワルツに入って、ソリスト、プリマ・ドットと育っていく過程もお客様には楽しい見どころのひとつとなっているようです。

この『くるみ割り人形』をゆりかごに育った若者は国内外で活躍しています。「バレエを通して学ぶことは多く、それが豊かな人生に繋がっていくと思います」と伴さんは締めくくりました。



2020年は「熊本バレエ研究所」創立70周年の記念すべき年。7月19日(日)には、全研究生の大発表会サマーバレエコンサート熊本市民会館で開催予定。写真左は、かねてより親交のある中国・上海市舞蹈学校との日中交流舞会で5年に一度の特別公演「眠れる森の美女」(2015年上演)の舞台の様

写真右)くるみ割り人形第二幕「お菓子の国」こんべい糖の精と王子のグラン・パ・ド・ドゥ。(2019年12月1日上演)

OPEN! BACKSTAGE

コラムでつなぐ交流の場

楽器の利用について

チェンバロの オーバーホール

県劇には多くのピアノがありますが、チェンバロもあります。開館から37年、この度全面的にチェンバロの部品交換、修繕(オーバーホール)をしました。ハンマーで弦を叩いて音を出すピアノに対し、チェンバロは爪で弦を弾いて音を出します。音の強弱による抑揚の表現は出来ませんが、トリルという装飾音などによって気持ちの高揚を表現するなど独特な音色を持ちます。

18世紀末以降のロマン派音楽の流行以来、ピアノに取って代わられました。が、ルネサンスやバロック時代の曲は、当時の楽器で演奏してこそ良さがわかるといわれます。ヴィヴァルディの「春」などは、チェンバロが活躍する代表的な曲でしょう。聴く機会は減りましたが、



チェンバロの音楽的な魅力は今も変わりません。チェンバロを聴きたい、演奏したい方のためにも、県立劇場でも引き続き、チェンバロの利用を広く受け付けます。

舞台さんのお仕事

8の字巻き

舞台転換で音響スタッフがマイクケーブルを手早く巻いている。演奏会などでそんなシーンを見たことがあると思います。一見何気なく巻いているように見えるかもしれませんが、実はある技を使っていることを知っていますか？

それは「8の字巻き」という技です。具体的には、ケーブルを同じ方向に巻いていくとケーブルが捻れてしまい、断線してしまう可能性があります。そうならないように「巻」巻、順、逆、逆と、ケーブルが捻れないように巻いています。

この巻き方をマスターすれば、ケーブルが捻れず、絡まないの、常に綺麗な状態で使えます。これは、イヤホンや電気コード、ホースなど日常生活でも応用できます。巻き方については、インターネットや動画サイトでも多く取り上げられていますので興味のある方はぜひ調べてください。「マイクケーブル8の字巻きグランプリ(コンテスト)」という全国大会も開かれているようです。劇場にお越しの際は、舞台転換の音響スタッフの技にも注目ください。



県劇スタッフリレーコラム

施設サービスクラフ

吉岡加容子(よしおかかみこ)

「ぼけっとツアー」

県劇には催事がない日も時折、団体のお客様が来館されます。そのほとんどは小学生です。学校の授業の一環として、学年やクラス単位で施設を見学します。

見学コースはお客様の要望に応じて構成するため、ドラえもんやポケモンのように「期待が詰まった」見学ツアーにしたいという思いから、私達職員はその見学を「ぼけっとツアー」と呼んでいます。子ども達が県劇に興味を持ってくれるように、わかりやすい説明を心掛けながらホールやバックヤードを案内します。

催事がないので、子ども達は各階の席に座って舞台の見え方を比べたり、舞台上で本番同様の照明を浴びて客席を見渡す...など、通常ではできない体験をします。特に、クラシック音楽専用ホールである「コンサートホール」は、音が美しく響きあう造りになっています。子ども達は「歌う班」と「聴く班」に分かれ、交互に舞台上で歌い、その歌声の響きを聴くという体験も行います。

施設見学のあとは子ども達から質



あなたの楽器見せてください

トランペット

昨年6月に購入したばかりのトランペットです。30余年使っていたものが劣化してきたため、某楽器店の試奏展示会に行きました。各メーカー、様々なタイプの楽器が並ぶ中、気になったのが「ウィーンの色」を売文句にしたこのトランペット。25年前、ウィーンを訪れて聴いた「ドヴォルザーク/交響曲第8番」のふくよかで輝かしく、そして力強いトランペットの音色に深く感動したことをふと思い出しました。試奏してみると、これまでになかった感覚がそこにあり、これなら理想の音に近づけられる気がしました。吹奏楽からジャズの演奏まで色々な場面でオーラルマイティに活躍してくれて大変気に入っています。

県劇では毎年定期演奏会で演奏しています。今回の曲目が決まり、さらに練習に励んでいるところです。演奏を長く続けていくことが一番の目標ですが、大事なことは前の自分を超越すること。「前の自分より大きな音を、高い音を、そしてスタミナをこれからも努力を続け成長していきたいと思っています。」

トランペット(ヤマハ YTR-8335WS)



高橋 茂文 [たかはし しげふみ]
熊本市民吹奏楽団 トランペット奏者
BOKジャズオーケストラトランペット奏者
県立第二高校吹奏楽部OB会会長

熊本市民吹奏楽団の予定
2020年4月29日(水・祝)熊本市民吹奏楽団第37回定期演奏会

寄稿

熊本大学大学院
教育学研究科准教授

瀧川 淳



チェコ・フィルハーモニー管弦楽団

2019年10月29日
コンサートホール

チェコ・フィルハーモニー管弦楽団には他のオケに譲れない持ち曲があるように思う。同郷スヌーナが作曲した《我が祖国》がそれだ。これを引いてチェコ・フィルが県劇にやってきた!

6曲からなる連作交響詩は、第2曲の《ブルタヴァ(モルダウ)》が有名だけれども、他の曲もチェコの伝説や自然、歴史がうたわれる。しかし全曲通して演奏されることはあまりない。今回のツアーでも東京公演と熊本のみ。東京公演はその他の演目も演奏しているから、自分たちの音楽である《我が祖国》だけを演奏したのは熊本だけだ。

木の香り漂う天鷲絨のような弦楽器とそれを絶対に汚さない管打楽器との調和誇るチェコ・フィルが長めの残響を伴う暖かい響きを奏する。そんなドラマを生んだのか。

音による奏者たちの自発的な対話が交わされるのをいくつも目の当たりにし、情緒に溢れ、ときに慈悲深く、ときに威厳を持って、またときに咆哮する魂の叫びとなって県劇のホールを響かす洪水で埋め尽くした。そしてロシア出身の指揮者ビシュコフはオケの音楽性を最大限尊重しつつ曲の構造を立体的に浮かび上がらせる。ホールとの相性も抜群。チェコ・フィルのホームグラウンドで聴いている錯覚さえ覚える、渾身の名演奏となった。

これを県劇で聴けたことはなんと幸せなことか。これほど特別なイベントに出会えることは滅多にない。次いつ出会えるかわからない。しかしホールに足を運ばなければ出会えない。さあ、また県劇に足を運ぼうではないか。